

E B P M 調 書

事業名	県立高校グローバル教育総合推進事業(グローバルリーダー育成プロジェクト・埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業)	課・担当	高校教育指導課・教育課程担当	担当者(内線)	
EBPMによる検証(ロジックモデル)					
① 将来像 (目指す姿)	<p>内向き思考を脱却し、グローバル社会に必要なグローバルの視点からの豊かな国際感覚、文化や哲学などの教養、課題解決能力などを身に付けた人材の輩出</p> <p>グローバル人材 ・語学力・コミュニケーション能力 ・主体性、積極性、チャレンジ精神、協調性、柔軟性、責任・使命感 ・異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティを兼ね備えた人材</p>	③ 課題 (将来像と現状との差についての分析)	<p>世界で活躍するグローバル人材の育成においては、短期留学などの海外体験を通じて異なる文化や価値観に直接触れ多くの刺激を受ける機会が必要であり、オンラインでは体験できない大変有効な手段であるため、渡航の機会を設ける必要がある。</p> <p>埼玉県から有能なリーダーを輩出するために、日本を含め身近なアジアの国々に目を向けたグローバル+ローカルな視点を高校生に持たせる必要がある。</p> <p>コロナ禍で海外との交流が大幅に制限されてグローバル人材の育成に歯止めがかかっている。このような状況下において、海外渡航以外にも国際交流を図る手法を整備する必要がある。</p>		
② 現状	<p>世界的な競争と共生が進む現代社会において、物事を主体的に考え、広い視野を持ち、異なる言語・文化を越えて活躍できる人材が求められている。</p> <p>一方で日本人の海外留学生数は諸外国と比較してと少ない傾向にある。 (参考:世界の海外留学生数 国別ランキング2019年 1位中国、2位インド、3位ベトナム、4位ドイツ、5位フランス、6位米国、7位韓国、…40位日本))※グローバルノート国別統計専門サイト(出典:UNESCO Institute)</p> <p>更に、内向き思考で海外に留学したいと思わない若者が諸外国と比較して多い現状である。(参考:H30我が国と諸外国の若者の意識に関する調査〈外国留学をしたいと思わない割合:日本53.2%、韓国22.0%、アメリカ24.0%、イギリス34.8%、ドイツ35.5%、フランス30.0%、スウェーデン31.5%〉)※内閣府調査</p>				
④ 投入 (インプット=予算)	⑤ 事業概要 (アクティビティ)	⑥ 事業実績 (アウトプット)	⑦ 事業実績から得られる成果 (アウトカム)		
R4 予算額	22,236千円	<p>○グローバルリーダー育成プロジェクト</p> <p>【活動指標】</p> <p>①国内研修等実施日数及び人数 ②国内研修のうちオンライン実施回数及び人数 ③一般生徒の国内研修への参加人数 ④海外研修の実施日数及び人数</p> <p>【活動実績】</p> <p>①R3実績8日各30人、R2中止、R1実績8日各40人 ②R3実績6回各30人、R2中止、R1実績0回 ③R3実績71人、R2中止、R1実績2人 ④R3中止、R2中止、R1実績9日</p>	<p>○グローバルリーダー育成プロジェクト</p> <p>【成果指標】</p> <p>グローバル人材の育成につなげる参加生徒の意識調査 ①将来国際的なリーダーとして活躍し、自国と世界の発展に貢献したいと考える生徒の割合 15%以上の上昇 ②大学進学者のうち、特に海外大学や国際・外国語に係る学部・学科への進学者数</p> <p>【成果実績】</p> <p>①R3 事業参加前:70%⇒事業参加後:93% ②104人/376人(事業参加者数:H23~R1※進路不明者14名除く)</p>		
うち一財	22,236千円	<p>○埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業</p> <p>20校を指定し、姉妹校等とオンライン交流と現地訪問交流を合わせたハイブリッド型国際交流を行う</p> <p>1 オンラインでの取組</p> <p>(1)事前研修 ・交流校とSDGs研究課題の設定や意見交換を行い英語によるコミュニケーション能力の向上を図る</p> <p>(2)事後研修 ・共同提言作成、研究成果の発表などを通じて、英語で自分の考えを伝える能力や探究心を育む</p> <p>2 オフラインでの取組 現地訪問交流、施設等の訪問、意見交換、フィールドワークを通じて、異文化に対する理解や、語学力・コミュニケーション能力などを育む</p>	<p>○埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業</p> <p>【成果指標】</p> <p>①将来、機会があれば海外の大学等への進学や留学にチャレンジしてみたいと思うようになった生徒数の割合 90%以上 ②多様な文化を理解することの大切さを学んだ生徒数 100%</p> <p>【成果実績】</p> <p>①R4見込 90% ②R4見込 100%</p>		
R3 予算額	21,323千円	<p>○埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業</p> <p>【活動指標】</p> <p>①オンラインで交流をした生徒数 ②オフラインで交流をした生徒数</p> <p>【活動実績】(R3)</p> <p>①オンラインで交流をした生徒数 1,310人 ②海外派遣生徒数 0人(コロナで渡航不可)</p>	<p>○グローバルリーダー育成プロジェクト</p> <p>【活動指標】</p> <p>①国内研修等実施日数及び人数 ②国内研修のうちオンライン実施回数及び人数 ③一般生徒の国内研修への参加人数 ④海外研修の実施日数及び人数</p> <p>【活動実績】</p> <p>①R3実績8日各30人、R2中止、R1実績8日各40人 ②R3実績6回各30人、R2中止、R1実績0回 ③R3実績71人、R2中止、R1実績2人 ④R3中止、R2中止、R1実績9日</p>		
うち一財	21,323千円	<p>○埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業</p> <p>20校を指定し、姉妹校等とオンライン交流と現地訪問交流を合わせたハイブリッド型国際交流を行う</p> <p>1 オンラインでの取組</p> <p>(1)事前研修 ・交流校とSDGs研究課題の設定や意見交換を行い英語によるコミュニケーション能力の向上を図る</p> <p>(2)事後研修 ・共同提言作成、研究成果の発表などを通じて、英語で自分の考えを伝える能力や探究心を育む</p> <p>2 オフラインでの取組 現地訪問交流、施設等の訪問、意見交換、フィールドワークを通じて、異文化に対する理解や、語学力・コミュニケーション能力などを育む</p>	<p>○埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業</p> <p>【成果指標】</p> <p>①将来、機会があれば海外の大学等への進学や留学にチャレンジしてみたいと思うようになった生徒数の割合 90%以上 ②多様な文化を理解することの大切さを学んだ生徒数 100%</p> <p>【成果実績】</p> <p>①R4見込 90% ②R4見込 100%</p>		

⑧ 事業実績(アウトプット)が成果(アウトカム)に結び付くことを示すロジック及び根拠

【定量的視点】

グローバルリーダー育成プロジェクトの令和3年度の定員「30名」に対して「271名」の応募があり、国際交流の機会を希望している生徒は非常に多い。
海外派遣生徒の追跡調査を行った結果、以下のように国際的に活躍が見込まれる生徒が多数見られた。

○卒業生※の進路先の例

- ①海外大学への進学(ロンドン大学、ベイパス大学、キングスカレッジロンドン等)
- ②海外大学への留学(ケンコン大学、西カトリック大学、カリフォルニア州立大学等)
- ③国際・外国語に係る学部・学科への進学(東京外語大、国際基督教大学、国際教養大学等)
- ④多様な就職先(国土交通省、楽天、アステラス製薬、医師等)

(※H23年～R1年事業参加者の卒業生)

留学の効果として、アンケートによると、

「語学へのモチベーション」が、留学前「64.7%」から留学後「88.8%」に上昇、「相手の意見や立場にあわせた柔軟な対応」が留学前「51.6%」から留学後「74.8%」に上昇、
などの変化が見られており、「多くの学生が自分のことを肯定的に評価しているということは、留学効果の一つとして見る事ができる」と言える。

(出展:『「日本人の海外留学の効果測定に関する調査研究」成果報告書』(河合塾)平成28年度海外留学支援制度(JASSO)の利用者を対象にしたアンケート結果)※平成29年度
文部科学省委託事業

【定性的視点】

高校生のうちに海外経験を積むことは、将来グローバル人材として活躍する意識付けとなる。グローバル化に対応する教育の推進は本県教育行政重点施策に掲げられているように、埼玉県の人材育成に必要不可欠であり、県立高校に付加価値をつけ魅力向上に資するものである。

海外派遣やオンライン活用を含む国際交流、外国語指導助手による指導などと合わせることで、語学力やコミュニケーション能力の向上だけでなく、外国語への学習意欲の向上にもつながり、グローバル人材の育成に大きく貢献することができる。

(出展:『「日本人の海外留学の効果測定に関する調査研究」成果報告書』(河合塾)より一部抜粋)※平成29年度文部科学省委託事業

事業手法に係る自己検証

検証項目		評価	評価に関する説明
県費投入の必要性	事業目的が730万県民や社会ニーズを的確に反映しているか。	○	豊かな国際感覚を有する人材の育成は、今後埼玉県が急速なグローバル化に対応する上で必要不可欠である。
	市町村、民間等に委ねることができない事業か。	○	県立高校の生徒を対象とした取組であるため、学校設置者である県が担うべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	豊かな国際感覚を有する人材の育成は、今後埼玉県が急速なグローバル化に対応する上で必要不可欠である。
事業の効率性	一般競争入札、指名競争入札、プロポーザル方式による契約のうち、一者応札となったものではないか。競争性のない随意契約となったものはないか。	—	一般競争入札にて業者を決定する。
	受益者負担は適切に設定されているか。	△	海外派遣に係る費用の一部については、生徒の自己負担を求めており、適切に設定されている。
	使途が事業目的達成にあたり必要なものに限定されているか。	○	高校生の渡航等に係る経費であり、金額についても必要最低限度である。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。	○	コロナ禍において外国語指導助手の入国及び配置が出来なかったために生じたものであり、やむを得ないものであった。
	既存事業との重複はないか。国、県、市町村で同様な事業を実施し二重行政となっていないか。	○	既存事業との重複はない。
	コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	経費については、現在も必要最低限度の金額のみ計上している。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	豊かな国際感覚を有する人材の育成する上で、海外派遣や異文化体験、外国人との共生を育む指導等は必要不可欠であり、成果目標に見合っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	—	代替手段はない。経費については、現在も必要最低限度の金額のみ計上している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	△	コロナ禍において渡航が出来なかったために生じることはあり得るが、充実した内容の国内研修を実施することで、可能な範囲で最大限の活動実績と言える。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—	整備された施設や成果物の該当はない。

総合評価

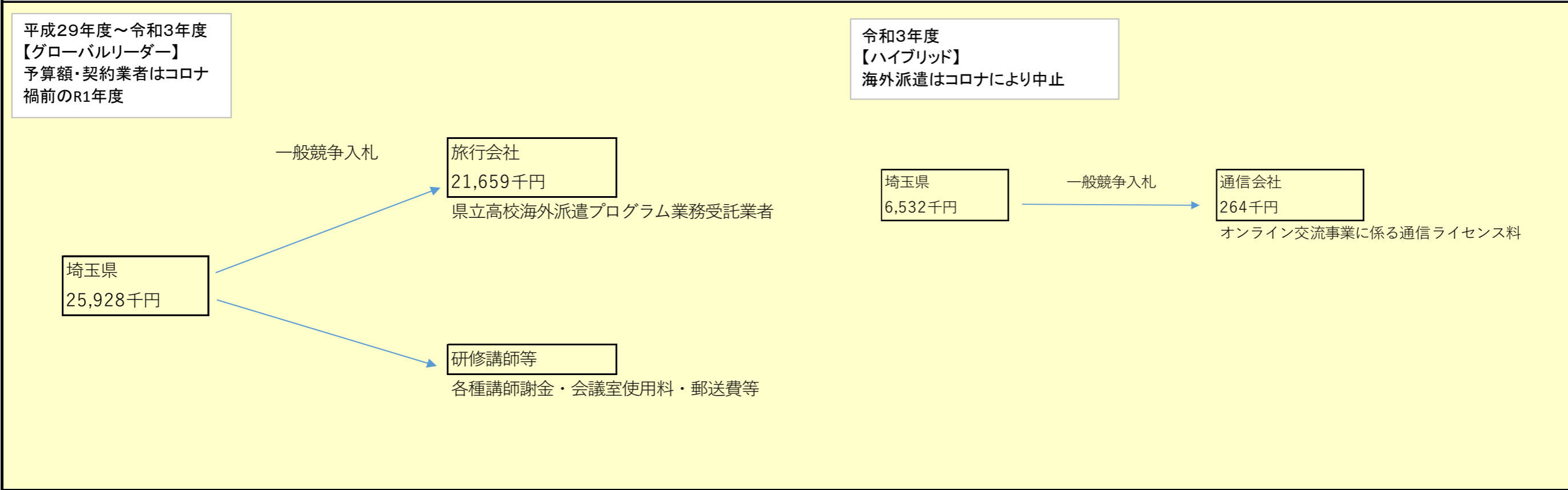
B

関連する事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右欄に記載)		
部局・課名	事業名	役割分担の内容

事業レビューシート(EBPM調書)

予算執行状況		当初予算額		補正予算額		最終現計予算額		執行額 (決算額)	執行率
		事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)	事業費	(うち一財)		
令和3年度	グローバルリーダー育成プロジェクト	14,791	14,791	-12,103	-12,103	2,688	2,688	2,314	15.6%
	埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業	6,532	6,532	-5,300	-5,300	1,232	1,232	368	5.6%
令和2年度	グローバルリーダー育成プロジェクト	26,873	26,873	-23,627	-23,627	3,246	3,246	1,493	5.6%
令和元年度	グローバルリーダー育成プロジェクト	25,928	25,928	-716	-716	25,212	25,212	24,630	95.0%
平成30年度	グローバルリーダー育成プロジェクト	25,267	25,267	-651	-651	24,616	24,616	24,432	96.7%
平成29年度	グローバルリーダー育成プロジェクト	31,627	31,627	-1,047	-1,047	30,580	30,580	30,108	95.2%

資金の流れ(資金が県からどのような経由で流れ、受取先が何を行っているか。)※スキーム図と具体的な交付先(H29からR3まで)を明記



ロジックモデル（フローチャート）

グローバルリーダー

事業成果
(アウトカム)

投入
(インプット=予算)

事業概要
(アクティビティ)

事業実績
(アウトプット)

直接成果

中間成果

最終成果
(将来像)

- ・ターゲット数：110,616人
(R3県立高校生生徒数)
- ・応募生徒数：271名

国内研修
英語集中研修
留学体験研修
模擬国連

海外研修
シンガポール派遣

国内研修の
実施8日
(一般生徒
の参加を
含む)
各30人参加

海外研修の
実施8日
30人参加

発信力・交渉
力・論理的思
考力を育成

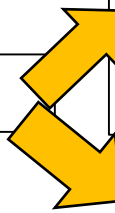
グローバル人
材としての意
識の涵養

将来国際的
なリーダー
として活躍
し、自国と
世界の発展
に貢献した
いと考える
生徒の割合
15%以上の
上昇

海外大学や
国際・外国
語に係る学
部・学科へ
の進学

県立高校生が
英語による発
信力、交渉力、
論理的思考力
等を身に付け
て、豊かな国
際感覚を持っ
たグローバル
リーダーとな
る。

15,236千円



ハイブリッド

ロジックモデル（フローチャート）

事業成果
(アウトカム)

投入
(インプット=予算)

事業概要
(アクティビティ)

事業実績
(アウトプット)

直接成果

中間成果

最終成果
(将来像)

・ターゲット数：110,616人（139校）
(R3県立高校生徒数)

オンライン研修
の実施

オンライン研修に
参加した生徒：
2,000人（20校）

探究型学習による
海外交流事業
の充実や、より
多くの生徒への
国際交流機会の
提供

①将来的に海外への進学や
留学にチャレンジしたい生徒90.0%
②多様な文化の理解の大切さを学んだ生徒数100.0%

探究心やコミュニケーション力を備えた、豊かな国際感覚を持つ人材の輩出

現地訪問交流
の実施

交流をした生徒：
600人（20校）

7,000千円

事業概要	
<p>グローバル人材の育成に向け、伝統と文化を尊重し、グローバル化に対応する教育を推進する。</p> <p>(1) グローバルリーダー育成プロジェクト 15,236 千円</p> <p>(2) 埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業 7,000 千円</p>	
事務局の説明	
<p><EBPMの観点からの課題></p> <p>(共通)</p> <p>将来像の実現に対して海外渡航が有効な手段であるとの根拠が不明確であり、海外渡航ありきの恣意的な課題設定になっている。</p> <p>適切な直接効果、中間効果の設定がなされておらず、事業の効果検証をすることが困難である。</p> <p>(グローバルリーダー育成プロジェクト)</p> <p>もともとグローバル意識の高い生徒から参加者を選抜しており、この事業が中間効果、最終効果の創出にどれだけ寄与したのか効果検証をすることが難しい。</p> <p>海外渡航費が全額県費負担となっており、受益者に適切な負担を負わせていない。</p> <p>(埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業)</p> <p>アウトカムが、アンケート調査により把握する指標に限られており、アウトプットがアウトカムに結びつくエビデンスとしては不十分である。</p> <p>県では他にも海外留学に対する支援を行っており、事業が重複している。</p>	
担当部局の説明	
<p><事務局の提示する課題についての説明></p> <p>(共通)</p> <p>グローバル人材の育成には、実際に現地での海外体験を通じて、異なる文化や価値観に直接触れ、大きな刺激を受ける機会が必要。</p> <p>海外体験が有用なことは文部科学省からも示されており、国としても留学促進、特に高校段階からの海外留学の支援を実施している。</p> <p>(グローバルリーダー育成プロジェクト)</p> <p>事業の前後の調査において、参加者に意識の変化が見られている。</p> <p>参加者の追跡調査では、大学進学者のうち、海外大学又は国際系、外国語学部等への進学者の割合は約 27%である。</p> <p>(埼玉と世界をつなぐハイブリッド型国際交流事業)</p> <p>国際競争社会に挑む生徒に、海外渡航の機会を与えることで、グローバル人材の育成に大きく寄与する。</p>	

短期の留学等が、その後の留学や、海外大学進学のかきかけにもなったという意見もある。

教育政策は生徒の成長や可能性の伸長等を目指して行われるものであり、短期的に直接的な効果が見えないとしても、長期的な視点で政策を続けていく必要がある。

議事の概要

< A委員 >

委員：30名の選抜基準は何か。

担当部局：各校で選抜した生徒（最大4名/校）に対し、さらに英語の試験と日本語の論文の試験を課し、成績に応じて30名を選抜している。

委員：30名を対象にした8日間の研修という内容だが、費用対効果的にどのように考えているか。

担当部局：海外での8日間の研修の中で模擬国連や現地の大学生とのディスカッションに加え、国内研修を行うなど充実した内容となっており、効果があると考えている。

< B委員 >

委員：事業の成果を測定してデータを取らないと、長期的多角的観点から評価できないが、どうするつもりか。

担当部局：事業の最終成果や将来像の実現を想定して、どのような数値を中間成果に設定すればよいのか判断が難しい。

委員：中間成果として「参加者30名に対して世界の発展に貢献したいと考える生徒の割合15%以上上昇」とあるが、最終成果に至るインパクトが単年度で見ると弱いと思うがどうか。

担当部局：予算が限られており、参加者を30名から増やすのは難しいが、効果のある事業を実施できるよう工夫していきたい。

< C委員 >

委員：どのような生徒にこのプログラムを提供するのか、ターゲットを絞るべきだと考えるがいかがか。

担当部局：今後検討していきたい。

委員の評価及び意見

< A委員 > A（継続すべき）

対象が「30名」かつ滞在期間が8日と少ないため、効果が限定的である。意欲があっても資金に欠く、あるいは、意欲が無い学生に働きかけることで新たな人材の発掘に繋がるのではないか。中間効果・最終効果が曖昧（抽象的）である。国の短期留学支援等があれば、県として独自に実施する意義は乏しい。高校での英語講義や海外大学への進学支援事業の方が効果的ではないか。

< B委員 > A（継続すべき）

生徒のどのような変容を政策的に意図しているかが不明瞭である。中間成果から最終成果への繋がりが論理的でなく、具体性に乏しい。参加生徒の変化について測定方法を検討する必要がある。予算の制約ということであったが、ターゲットが限定的で狭く、最終成果へのインパクトが小さ

い。効果検証のために毎年成果を測定し、データを蓄積する必要がある。

<C委員>A（継続すべき）

国民様々な留学支援制度がある中で、本プロジェクトの事業目的を明確化するため、ターゲットとする高校生の属性を明確にすることが重要である。

有識者会議を踏まえた評価

【A（継続すべき）】

適切な成果指標が設定されておらず、ロジックモデルの論理的整合性に疑義があるが、事業そのものの意義は認められる。

事業の継続は認めるが、改めて事業目的、事業のターゲットを明確化し、限られた財源の中で事業効果を最大化できるようロジックモデルを再構築する必要がある。あわせて、効果検証ができる適切な成果指標を設定し、データの収集・蓄積を図る必要がある。

【令和5年度当初予算】

予算額

【令和5年度】

事業費	22,380 千円
うち一財	22,380 千円

【令和4年度】

事業費	22,236 千円
うち一財	22,236 千円

評価・意見を踏まえた対応 等

【評価・意見を踏まえた対応】

- ・限られた予算の中でより多くの生徒への効果を見込むため、受益者負担を設定し、参加人数を 30 名から 40 名に見直した。
- ・様々な他校の生徒とともに国内研修や海外研修に取り組み、切磋琢磨することが本プロジェクトの狙いでもあるため、より多くの県立高校にプロジェクトの参加機会を与えられるよう、各校からの応募者数を昨年度の 4 名から 3 名に変更し、選抜をした。
- ・効果検証のために、参加者に校友会に加入することを条件付け、効果測定の蓄積・後追いができるようにした。

【令和5年度当初予算への反映状況】

- ・限られた予算の中でより多くの生徒への効果を見込むため、受益者負担を設定し、参加人数を 30 名から 40 名に見直した。